



## udld から vtp transparent まで

---

- [udld, 2 ページ](#)
- [udld port, 4 ページ](#)
- [udld reset, 7 ページ](#)
- [vlan \(グローバル\) , 9 ページ](#)
- [vlan access-map, 12 ページ](#)
- [vlan database, 14 ページ](#)
- [vlan filter, 17 ページ](#)
- [vtp \(グローバル\) , 20 ページ](#)
- [vtp \(インターフェイス\) , 26 ページ](#)
- [vtp client, 27 ページ](#)
- [vtp domain, 29 ページ](#)
- [vtp password, 31 ページ](#)
- [vtp server, 33 ページ](#)
- [vtp transparent, 35 ページ](#)

# udld

単一方向リンク検出 (UDLD) プロトコルにおいて、アグレッシブまたは標準モードをイネーブルにし、設定可能なメッセージ時間を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **udld** コマンドを使用します。アグレッシブモード UDLD または標準モード UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**udld** {aggressive| enable| message time seconds}

**no udld** {aggressive| enable| message time seconds}

## 構文の説明

<b>enable</b>	すべての光ファイバインターフェイス上で、標準モード UDLD をデフォルトでイネーブルにします。
<b>aggressive</b>	すべての光ファイバインターフェイス上で、アグレッシブモード UDLD をデフォルトでイネーブルにします。
<b>message time</b> seconds	アドバタイズモードであり、現在双方向であると判別されているポートに、UDLD プロブメッセージの間隔を設定します。有効値は 7～90 秒です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- UDLD はすべての光ファイバインターフェイスでディセーブルです。
- seconds は 15 秒です。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。

リリース	変更内容
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドの **no** 形式は、次の場合に使用します。

- すべての光ファイバポート上で、標準モード UDLD をデフォルトでディセーブルにする。
- すべての光ファイバポート上で、アグレッシブモード UDLD をデフォルトでディセーブルにする。
- メッセージタイマーをディセーブルにする。

アグレッシブモードがイネーブルである場合、ポートのすべてのネイバーがアドバタイズフェーズまたは検出フェーズ中に期限切れになると、UDLD はリンクアップシーケンスを再開して、同期化されない可能性のあるネイバーと再同期化し、リンクからのメッセージリリースが未定の場合は、ポートをシャットダウンします。

このコマンドは、光ファイバインターフェイスにだけ作用します。他のインターフェイスタイプで UDLD をイネーブルにする場合は、**udldport** コマンドをインターフェイスコンフィギュレーションモードで使用します。

**例** 次に、すべての光ファイバインターフェイスで UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config)#
udld enable
Router(config)#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show udld</b>	管理上および運用上の UDLD ステータスを表示します。
<b>udld port</b>	インターフェイス上で UDLD をイネーブルにしたり、インターフェイス上でアグレッシブモード UDLD をイネーブルにしたりします。

# udld port

インターフェイス上で単一方向リンク検出 (UDLD) プロトコルをイネーブルにするか、またはインターフェイス上でアグレッシブ モード UDLD をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **udldport** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**udld port [aggressive]**

**no udld port [aggressive]**

## 構文の説明

<b>aggressive</b>	(任意) 現在のインターフェイス上でアグレッシブ モード UDLD をイネーブルにします。詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
-------------------	---

## コマンド デフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- 光ファイバインターフェイスは、グローバル **udld** (**enable** または **aggressive**) コマンド状態です。
- 光ファイバインターフェイス以外では、UDLD はディセーブルです。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
15.1(2)SNG	このコマンドが、Cisco ASR 901 シリーズの集約サービス ルータに実装されました。

**使用上のガイドライン** CLI でこのコマンドを表示するには、イネーブルにしようとしているポートに GBIC を装着する必要があります。

光ファイバポート上で、**udldport** および **udldport aggressive** コマンドを使用すると、グローバル **udld (enable または aggressive)** コマンドの設定を上書きします。この設定を削除して、UDLD のイネーブル化に関する制御をグローバル **udld** コマンドに戻したり、光ファイバ以外のポートの場合に UDLD をディセーブルにしたりするには、光ファイバポート上でこのコマンドの **no** 形式を使用します。

アグレッシブモードがイネーブルである場合、ポートのすべてのネイバーがアドバタイズフェーズまたは検出フェーズ中に期限切れになると、UDLD はリンクアップシーケンスを再開して、同期化されない可能性のあるネイバーと再同期化し、リンクからのメッセージリリースが未定の場合には、ポートをシャットダウンします。

ポートが光ファイバポートから光ファイバ以外のポートに、またはその逆に変更された場合でも、プラットフォームソフトウェアによってモジュールまたはギガビットインターフェイスコンバータ (GBIC) の変更が検出されるため、すべての設定が維持されます。

**例** 次に、現在のグローバルな **udld** 設定に関係なく、すべてのポートインターフェイスで UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)#
udld port
Router(config-if)#
```

次に、現在のグローバルな **udld (enable または aggressive)** 設定に関係なく、すべてのポートインターフェイス上でアグレッシブモード UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)#
udld port aggressive
Router(config-if)#
```

次に、現在のグローバルな **udld** 設定に関係なく、光ファイバポートインターフェイス上で UDLD をディセーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)#
no udld port
Router(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show udld</b>	管理上および運用上の UDLD ステータスを表示します。
<b>udld</b>	アグレッシブモード UDLD または標準モード UDLD をイネーブルにしたり、設定可能なメッセージ時間を設定したりします。



# udld reset

単一方向リンク検出 (UDLD) プロトコルによってシャットダウンされたすべてのポートをリセットし、再度トラフィックの通過を許可する (ただし、スパニングツリー、ポート集約プロトコル (PAgP)、ダイナミック トランッキング プロトコル (DTP) などの他の機能がイネーブルの場合には通常どおりに動作します) には、特権 EXEC モードで **udldreset** コマンドを使用します。

## udld reset

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

ポート シャット ダウンはリセットされません。

### コマンド モード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。

### 使用上のガイドライン

UDLD のインターフェイス コンフィギュレーションがまだイネーブルの場合、これらのポートは UDLD の再実行を開始します。シャットダウンの原因が修正されていない場合は、何らかの理由によりポートがシャットダウンすることがあります。

### 例

次に、UDLD によってシャットダウンされたすべてのポートをリセットする例を示します。

```
Router#
udld reset
Router#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show udld</b>	管理上および運用上の UDLD ステータスを表示します。



## vlan (グローバル)

VLAN を追加して、`config-VLAN` サブモードを開始するには、グローバル コンフィギュレーションモードで `vlan` コマンドを使用します。VLAN を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`vlan {vlan-id| vlan-range}`

`no vlan {vlan-id| vlan-range}`

### 構文の説明

<code>vlan-id</code>	VLAN の番号です。有効値の範囲は 1 ~ 4094 です。VLANID 番号の設定の詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<code>vlan-range</code>	設定された VLAN の範囲。VLAN ID 番号の設定範囲の詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

### コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定がありません。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Cisco IOS Release 12.2(17d)SXB に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.4(15)T	このコマンドは Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。

### 使用上のガイドライン

VLAN 1 パラメータは、出荷時に設定されており、変更できません。

VLAN 1 および VLAN 1002 ~ 1005 はデフォルトの VLAN です。デフォルトの VLAN は自動的に作成されるため、ユーザによる削除または設定はできません。

config-VLAN サブモードを終了すると、指定された VLAN が VLAN データベースに対して追加または変更されます。

vlan vlan-id コマンドを入力すると、一時バッファ内のすべてのデフォルトパラメータを使用して新規 VLAN が作成され、CLI は config-VLAN サブモードを開始します。入力した vlan-id が既存の VLAN と一致する場合は、config-VLAN サブモードで入力するコンフィギュレーションコマンドがすべて既存の VLAN に適用されます。新しい VLAN は作成しません。

設定された VLAN の範囲を定義する場合は、config-VLAN サブモードで vlan-name 引数を設定できません。

vlan-range 引数を入力するには、カンマ (,)、ダッシュ (-)、および数字を使用します。

1006 ~ 4094 の範囲の VLAN ID は、「拡張された VLAN ID」であると見なされます。Cisco IOS Release 12.4(15)T 以降は、次のルータで拡張された VLAN ID を設定できます。

- モデル 851、857、871、876、877、878 を含む Cisco 800 シリーズ ルータ
- モデル 1711、1712、1751、1751V、1760 を含む Cisco 1700 シリーズ ルータ
- モデル 1801、1802、1803、1811、1812、1841 を含む Cisco 1800 シリーズ ルータ
- モデル 2610XM、2611XM、2620XM、2621XM、2650XM、2651XM、2691 を含む Cisco 2600 シリーズ ルータ
- モデル 2801、2811、2821、2851 を含む Cisco 2800 シリーズ ルータ
- モデル 3620、3640、3640A、3660 を含む Cisco 3600 シリーズ ルータ
- モデル 3725、3745 を含む Cisco 3700 シリーズ ルータ
- モデル 3825、3845 を含む Cisco 3800 シリーズ ルータ

4000 VLAN をサポートするには、MAC アドレスの削減機能が必要です。Cisco IOS Release 12.1(14)E1 以降のリリースは、64 または 1024 の MAC アドレスを持つシャーシをサポートします。64 の MAC アドレスを持つシャーシの場合、スパニングツリー プロトコル (STP) は拡張システム ID (つまり VLAN ID) と MAC アドレスを使用して、各 VLAN に対してブリッジ ID を一意にします。(MAC アドレス削減機能がサポートされていない場合、4096 の VLAN では、スイッチ上に 4096 の MAC アドレスが必要になります)

拡張 VLAN を設定する場合は、スパニングツリー拡張システム ID 機能もイネーブルにする必要があります。

レガシー vlan database モードは、拡張 VLAN コンフィギュレーションをサポートしていません。

config-VLAN サブモードで利用できるコマンドの詳細については、vlan (config-VLAN) コマンドを参照してください。

## 例

次に、新規 VLAN を追加して、config-VLAN サブモードを開始する例を示します。

```
Router(config)#
```

**vlan 2**

Router(config-vlan)#

次に、新規 VLAN 範囲を追加して、config-VLAN サブモードを開始する例を示します。

Router(config)#

**vlan 2,5,10-12,20,25,4000**

Router(config-vlan)#

次に、VLAN を削除する例を示します。

Router(config)#

**no vlan 2**

Router(config)#

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>vlan (config-VLAN)</b>	特定の VLAN を設定します。

## vlan access-map

VLAN アクセス マップを作成するか、または VLAN アクセス マップ コマンド モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vlanaccess-map** コマンドを使用します。マップ シーケンス または マップ 全体を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vlan access-map** *name* [ *seq-number* ]

**no vlan access-map** *name* [ *seq-number* ]

### 構文の説明

<i>name</i>	VLAN アクセス マップのタグです。
<i>seq-number</i>	(任意) マップ シーケンス 番号。有効値は 0～65535 です。

### コマンド デフォルト

VLAN アクセス マップは作成されません。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。

### 使用上のガイドライン

既存のマップ シーケンスのシーケンス番号を入力するには、VLAN アクセス マップ モードを開始します。

シーケンス番号を指定しないと、番号が自動的に割り当てられます。各マップ シーケンスには、**match** 句および **action** 句をそれぞれ 1 つずつ入力できます。

シーケンス番号を指定しないで **novlanaccess-mapname** [seq-number] コマンドを入力すると、マップ全体が削除されます。

VLAN アクセスマップ モードを開始すると、次のコマンドが使用可能になります。

- **action** : パケットの **action** 句を指定します。**action** コマンドの項を参照してください。
- **default** : コマンドをデフォルトに設定します。
- **end** : コンフィギュレーションモードを終了します。
- **exit** : VLAN アクセスマップ コンフィギュレーションモードを終了します。
- **match** : match 句を指定します。**match** コマンドの項を参照してください。
- **no** : コマンドを無効にするか、またはデフォルト値に設定します。

## 例

次の例では、VLAN アクセスマップ モードを開始する方法を示します。

```
Router(config)# vlan access-map tagname1
Router(config-access-map)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>action</b>	パケットの <b>action</b> 句を設定します。
<b>match</b>	VLAN アクセス マップ シーケンスの ACL を 1 つ以上選択して、 <b>match</b> 句を指定します。
<b>show vlan access-map</b>	VLAN アクセス マップの内容を表示します。

# vlan database



(注) **vlandatabase** コマンドは、Cisco IOS Release 12.2(33)SX15 および Cisco IOS 12.2SX 以降のリリースでは使用できません。

VLAN コンフィギュレーション モードを開始するには、特権 EXEC モードで **vlandatabase** コマンドを使用します。

## vlan database

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

VLAN コンフィギュレーション モードは開始されません。

### コマンド モード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6500 シリーズ スイッチに追加されました。
12.1(1)E	Catalyst 6500 シリーズ スイッチにおけるこのコマンドのサポートが E リリースに拡張されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。

## 使用上のガイドラ

- (注) Cisco 7600 シリーズ ルータまたは Catalyst 6500 シリーズ スイッチで RPR+ モードを実行している場合は、VLAN-database モードで VLAN を設定しないでください。アクティブ スーパーバイザ エンジンとスタンバイ スーパーバイザ エンジンの間での設定同期中に、パフォーマンスが低下することがあります。

VLAN コンフィギュレーションモードを開始すると、VLAN データベースにアクセスし、次のようなバッファ操作コマンドを編集できます。

- **abort** : 変更を適用せずにこのモードを終了します。
- **apply** : 現在の変更が適用され、リリース番号が増加します。
- **exit** : 変更が適用され、リリース番号が増加し、モードを終了します。
- **no** : コマンドを無効にするかまたはデフォルトに設定します。有効値は **vlan** および **vtp** です。
- **reset** : 現在の変更を破棄し、現在のデータベースから読み直します。
- **show** : データベース情報を表示します。
- **vlan** : サブコマンドにアクセスして、単一の VLAN と関連付けられた値を追加、削除、または変更します。 **vlan** サブコマンドについては、**vlan (VLAN)** コマンドを参照してください。
- **vtp** : サブコマンドにアクセスして、仮想プロトコル (VTP) の管理機能を実行します。 **vtp** サブコマンドの詳細については、**vtpclient** コマンドを参照してください。

## 例

次に、VLAN コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Router# vlan database
Router(vlan)#
```

次に、VLAN コンフィギュレーションモードの場合に、変更を適用しないで VLAN コンフィギュレーションモードを終了する例を示します。

```
Router(vlan)# abort
Aborting....
Router#
```

次に、VLAN コンフィギュレーションモードの場合、VLAN を削除する例を示します。

```
Router(vlan)# no vlan 100
Deleting VLAN 100...
Router(vlan)#
```

次に、VLAN コンフィギュレーションモードの場合、VLAN を削除する例を示します。

```
Router(vlan)# no vlan 100
Deleting VLAN 100...
Router(vlan)#
```

次に、VLAN コンフィギュレーション モードの場合に、プルーンングをオフにする例を示します。

```
Router(vlan)# no vtp pruning
Pruning switched OFF
Router(vlan)#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vlan</b>	VLAN 情報を表示します。



## vlan filter

VLAN アクセス マップを適用するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vlanfilter** コマンドを使用します。VLAN またはインターフェイスから VLAN アクセス マップを消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vlan filter** *map-name* {**vlan-list** *vlan-list*| **interface** *interface interface-number*}

**no vlan filter** *map-name* {**vlan-list** [*vlan-list* ]| **interface** [*interface interface-number*]}

### 構文の説明

<i>map-name</i>	VLAN アクセス マップのタグです。
<i>vlan-list</i>	VLAN リスト。有効値は 1 ~ 4094 です。 <i>vlan-list</i> 引数の詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<b>interface</b> <i>interface</i>	インターフェイスタイプを指定します。有効値は <b>pos</b> 、 <b>atm</b> 、または <b>serial</b> です。詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<i>interface-number</i>	インターフェイス番号。詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

### コマンド デフォルト

VLAN アクセス マップは適用されません。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドのサポートが Supervisor Engine 720 に追加されました。
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。

**使用上のガイドライン** VLAN アクセス マップに `action` 句を設定する場合は、次の点に注意してください。

- VLAN アクセス マップは、1 つまたは複数の VLAN または WAN インターフェイスに適用できます。
- `vlan-list` 引数には単一の VLAN ID、VLAN ID リスト、または VLAN ID 範囲 (`vlan-id-vlan-id`) を指定できます。複数のエントリはハイフン (-) またはカンマ (,) で区切ります。
- VLAN アクセス コントロール リスト (VACL) が適用された WAN インターフェイスを削除すると、インターフェイス上の VACL 設定も削除されます。
- 各 VLAN または WAN インターフェイスには、VLAN アクセス マップを 1 つだけ適用できます。
- VLAN に適用した VACL がアクティブになるのは、レイヤ 3 VLAN インターフェイスが設定されている VLAN に適用された場合だけです。レイヤ 3 VLAN インターフェイスを備えていない VLAN に適用された VACL は、非アクティブです。レイヤ 3 VLAN インターフェイスを備えていない VLAN に VLAN アクセス マップを適用すると、VLAN アクセス マップをサポートするレイヤ 3 VLAN インターフェイスが、管理上のダウン状態で作成されます。レイヤ 3 VLAN インターフェイスの作成に失敗すると、VACL は非アクティブになります。

このコマンドの **no** 形式を入力する場合、`vlan-list` 引数はオプションです（ただし、キーワード **vlan-list** は必須です）。`vlan-list` 引数を入力しないと、`map-name` 引数が適用されるすべての VLAN から VACL が削除されます。

WAN インターフェイスにこのコマンドの **no** 形式を入力する場合、`interface` 引数はオプションです（ただし、**interface** キーワードは必須です）。`interface` 引数を入力しないと、`map-name` が適用されるインターフェイスから VACL が削除されます。

**vlanfiltermap-nameinterface** コマンドに対応しているのは、ATM、POS、またはシリアルインターフェイス タイプだけです。Cisco 7600 シリーズ ルータにこれらのインターフェイス タイプが装備されていない場合は、**interfaceinterfaceinterface-number** キーワードおよび引数を使用できません。

`interface-number` の形式は、`mod/port` または `slot/port-adapter/port` です。サブインターフェイスまたはチャンネル グループ記述子を含めることができます。

## 例

次の例では、VLAN 7～9 に VLAN アクセス マップを適用する方法を示します。

```
Router(config)# vlan filter ganymede vlan-list 7-9
Router(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>action</b>	パケットの <code>action</code> 句を設定します。

コマンド	説明
<b>match</b>	VLAN アクセス マップ シーケンスの ACL を 1 つ以上選択して、match 句を指定します。
<b>show vlan filter</b>	VLAN フィルタに関する情報を表示します。

## vtp (グローバル)

グローバル VLAN トランッキング プロトコル (VTP) 状態を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vtp** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vtp {domain domain-name| file filename| interface interface-name [only]| mode {client| off| server| transparent}| password password-value| pruning| version {1| 2}}
```

```
no vtp
```

```
vtp {domain domain-name| file filename| interface interface-name [only]| mode {client| off| server| mst| unknown| vlan}| transparent}| password password-value [hidden| secret]| pruning| version {1| 2| 3}}
```

```
no vtp
```

### 構文の説明

<b>domain</b> <i>domain-name</i>	VTP 管理ドメイン名を設定します。
<b>file</b> <i>filename</i>	VTP コンフィギュレーションを保存する IFS ファイル システム ファイルの ASCII 名を設定します。
<b>interface</b> <i>interface-name</i>	この装置の VTP アップデータ ID の推奨送信元の名前を設定します。
<b>only</b>	(任意) VTP IP アップデータ アドレスとして現在のインターフェイスの IP アドレスだけを使用するように指定します。
<b>mode client</b>	VTP 装置のモードタイプをクライアント モードに設定します。
<b>mode off</b>	VTP 装置のモードタイプをオフ モードに設定します。
<b>mode server</b>	VTP 装置のモードタイプをサーバ モードに設定します。
<b>mode transparent</b>	VTP 装置のモードタイプをトランスペアレント モードに設定します。
<b>password</b> <i>password-value</i>	管理ドメインパスワードを指定します。
<b>pruning</b>	管理ドメインによるプルーニングの許可をイネーブルにします。

Catalyst 6500 シリーズ スイッチ	
<b>hidden</b>	(任意) 実行コンフィギュレーションで 16 進数形式で保存された秘密キーとともにパスワードを設定します。Catalyst 6500 シリーズスイッチでだけサポートされます。
<b>secret</b>	(任意) パスワードの秘密キーを直接設定できます。Catalyst 6500 シリーズスイッチでだけサポートされます。
<b>mst</b>	マルチ スパニングツリー (MST) VTP インスタンスのモードを設定します。
<b>unknown</b>	不明な VTP 機能のモードを設定します。
<b>vlan</b>	VLAN VTP インスタンスのモードを設定します。
<b>version {1   2   3}</b>	管理ドメイン VTP バージョン番号を指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- **vtp domain** および **vtpinterface** コマンドには、デフォルト設定がありません。
- *filename* は `const-nvram:vlan.dat` です。
- VTP モードは **modeserver** です。
- パスワードは設定されていません。
- プルーニングはディセーブルです。
- 管理ドメイン VTP バージョン番号は 1 です。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(14)SX	このコマンドが Supervisor Engine 720 に導入されました。

リリース	変更内容
12.2(17d)SXB	Supervisor Engine 2 上のこのコマンドのサポートが Cisco IOS Release 12.2(17d)SXB に拡張されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2(33)SXH	<b>modeoff</b> キーワードの組み合わせが追加されました。
12.2(33)SXI	Catalyst 6500 シリーズ スイッチでは、以下が変更されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>vtp mode</b> {<b>client</b>   <b>off</b>   <b>server</b> [<b>mst</b>   <b>unknown</b>   <b>vlan</b>]   <b>transparent</b>}</li> <li>• <b>vtp password</b> <i>password-value</i> [<b>hidden</b>   <b>secret</b>]</li> <li>• <b>vtp version</b> {<b>1</b>   <b>2</b> <b>3</b>}</li> </ul>
15.0(1)M	このコマンドは、Cisco IOS Release 15.0(1)M よりも前のリリースに統合されました。

### 使用上のガイドライン

(注) **vtp pruning**、**vtp password**、および **vtp version** コマンドは、特権 EXEC モードでも使用できます。これらのコマンドはグローバルコンフィギュレーションモードでだけ使用し、特権 EXEC モードでは使用しないでください。

拡張範囲 VLAN は、VTP バージョン 1 およびバージョン 2 ではサポートされていません。拡張範囲 VLAN は、VTP バージョン 3 でサポートされています。

**domain-name** 値を定義する場合は、大文字と小文字を区別する 1 ~ 32 文字のドメイン名を指定してください。

**filename** および **interface-name** 値は、1 ~ 255 文字の ASCII 文字列です。

スイッチがセキュアモードの場合、管理ドメイン内の各ネットワーク装置にパスワードを設定する必要があります。



#### 注意

VTP をセキュアモードで設定した場合、ドメイン内の各ネットワーク デバイ스에管理ドメインパスワードを割り当てるまで、管理ドメインは正常に動作しません。

VTP バージョン 2 対応のネットワーク デバイス上で VTP バージョン 2 をディセーブルに設定している場合、その VTP バージョン 2 対応ネットワーク デバイスは、同一 VTP ドメイン内で VTP バージョン 1 が稼働しているネットワーク デバイスとして動作します (VTP バージョン 2 は、デフォルトでディセーブルに設定されています)。

同一 VTP ドメイン内のすべてのネットワーク デバイスがバージョン 2 に対応する場合を除き、ネットワーク デバイス上で VTP バージョン 2 をイネーブルにしないでください。ネットワーク

デバイス上で VTP バージョン 2 をイネーブルにすると、ドメイン内のすべてのバージョン 2 対応ネットワーク デバイスで VTP バージョン 2 がイネーブルになります。

トークンリング環境で、VLAN スイッチング機能を正常に動作させるには、VTP バージョン 2 をイネーブルにする必要があります。

VTP サーバ上で VTP プルーニングをイネーブルまたはディセーブルにすると、管理ドメイン全体で VTP プルーニングがイネーブルまたはディセーブルになります。

該当するデバイス上で VLAN をプルーニング適格または不適格として設定した場合に、影響を受けるのは、そのスイッチ上の VLAN のプルーニング適性だけです。VTP ドメイン内のすべてのネットワーク装置のプルーニング適性に影響するわけではありません。

**vtp password**、**vtp pruning**、および **vtp version** コマンドは、スタートアップメモリに格納されないで、VTP トランスペアレントモード スタートアップ コンフィギュレーション ファイルに格納されます。

拡張範囲 VLAN は、VTP ではサポートされません。

VTP-server モードで **pruning** キーワードを設定できます。**version** キーワードは、VTP-server モードまたは VTP トランスペアレントモードで設定できます。

**password-value** 引数は、装置の管理ドメインを識別する 8 ～ 64 文字の ASCII 文字列です。

VTP プルーニングにより、プルーニング適格 VLAN に所属するステーションがない場合、その VLAN の情報は VTP 更新から削除されることになります。

VTP ドメイン内の該当するすべてのデバイスで、同じ VTP バージョンを実行する必要があります。同一 VTP ドメイン内の該当デバイスで、VTP バージョン 1 とバージョン 2 を同時に実行できません。

ドメイン内のすべての該当デバイスが VTP バージョン 2 対応の場合、該当デバイス上で VTP バージョン 2 をイネーブルにするだけで、バージョン番号は、VTP ドメイン内の他のバージョン 2 対応の該当デバイスに伝播されます。

バージョン 2 モードを切り替えると、特定のデフォルト VLAN のパラメータが変更されます。

**vtp mode off** コマンドを入力すると、デバイスをオフに設定します。**no vtp mode off** コマンドを入力すると、デバイスを VTP サーバモードに戻します。

Catalyst 6500 シリーズ スイッチ

VTP バージョン 3 は、バージョン 1 およびバージョン 2 のすべての機能をサポートします。VTP バージョン 3 は、バージョン 1 およびバージョン 2 でサポートされていない次の機能もサポートします。

- 拡張認証：VTP バージョン 3 では、**vtp password** コマンドを使用して認証パスワードを非表示にするよう設定できます。認証パスワードを非表示に設定した場合、設定のパスワードはプレーンテキストで表示されません。代わりに、使用されている設定でパスワードに関連付けられた秘密キーが 16 進数形式で保存されます。**password-string** 引数は、デバイスの管理ドメインを識別する 8 ～ 64 文字の ASCII 文字列です。次の構文が使用可能です。

**password** *password-string* [**hidden** | **secret**]

**password** *password-string* : 管理ドメイン パスワードを指定します。

**hidden** : (任意) 実行コンフィギュレーションで16進数形式で保存された秘密キーとともにパスワードを設定します。

**secret** : (任意) パスワードの秘密キーを16進数形式で直接設定できます。

VTPパスワードの**hidden**キーワードは、VTPバージョン3だけでサポートされます。VTPバージョン3からVTPバージョン2へ変換する場合は、変換を行う前に**hidden**キーワードを削除する必要があります。

- 拡張範囲 VLAN データベース伝播のサポート : VTPバージョン1およびバージョン2はVLAN 1 ~ 1000だけをサポートします。VTPバージョン3では、VLAN範囲全体 (VLAN 1 ~ 4096) がサポートされます。VLANのプルーニングはVLAN 1 ~ 1000にだけ適用されます。拡張範囲VLANはVTPバージョン3だけでサポートされます。VTPバージョン3からVTPバージョン2に変換する場合は、1006 ~ 4094の範囲のVLANがVTP制御から削除されます。
- ドメイン内にあるデータベースの伝播のサポート : VTPバージョン1およびバージョン2では、VTPサーバを使用してデータベースをNVRAMにバックアップし、データベース情報を変更できます。VTPバージョン3では、VTPプライマリサーバとVTPセカンダリサーバが存在します。プライマリサーバでは、データベース情報を変更でき、送信されたデータベース更新はシステム内のすべての装置で反映されます。セカンダリサーバでは、プライマリサーバから受け取った更新済みVTP設定だけをNVRAMにバックアップできます。プライマリサーバとセカンダリサーバのステータスは実行時ステータスであり、設定不可能です。

デフォルトでは、すべてのデバイスはセカンダリサーバとして起動します。プライマリサーバを指定するには**vtp primary**特権EXECモードコマンドを入力します。次の構文が使用可能です。

**vtp primary [vlan | mst] [force]**

**vlan** : (任意) VTP VLAN機能のプライマリサーバとしてデバイスを指定します。

**mst** : (任意) VTP MST機能のプライマリサーバとしてデバイスを指定します。

**force** : (任意) このデバイスを強制的にプライマリサーバにします。

プライマリサーバステータスは、データベース変更を実行する必要がある場合だけ必要であり、管理者がドメイン内で引継ぎメッセージを発行した場合に取得されます。プライマリサーバステータスは、リロードやスイッチオーバーを行ったとき、またはドメインパラメータが変更したときに失われます。セカンダリサーバは設定をバックアップし、データベースを伝播し続けます。プライマリサーバなしで実用VTPドメインを持つことができます。

VTPバージョン3では、VLANデータベース情報だけを伝播できる制限がなくなりました。VTPバージョン3を使用してVTPドメイン全体でデータベース情報を伝播できます。VTPを使用する各アプリケーションに対してプロトコルの個別インスタンスが実行されています。

- トランク単位でVTPをオン/オフにするCLI : インターフェイスコンフィギュレーションモードで**novtp**コマンドを使用して、トランク単位でVTPをディセーブルにできます。トランクポートでVTPをディセーブルにすると、そのポートのすべてのVTPインスタンスがディセーブルになります。VTPをMSTデータベースに対してOFF、VLANデータベースに対してONに設定できません。インターフェイスコンフィギュレーションモードで**vtp**コマンドを使用して、トランク単位でVTPをイネーブルにできます。



グローバルでの VTP : VTP モードをグローバルに OFF に設定すると、システム内のすべてのトランッキングポートに適用されます。ポートごとの設定とは異なり、1つの VTP インスタンスごとに OFF オプションを指定できます。たとえば、システムは VLAN データベースに対する VTP-server として、または MST データベースに対する VTP-off として設定できます。この場合は、VLAN データベースが VTP によって伝播され、MST 更新がシステム内のトランクポートに送信され、システムが受け取った MST 更新が破棄されます。

## 例

次に、デバイスの管理ドメインを設定する例を示します。

```
Router(config)#
vtp domain DomainName1
```

次に、VTP コンフィギュレーションを保存する IFS ファイルシステム内のファイルを指定する例を示します。

```
Router(config)#
vtp file vtpconfig
Setting device to store VLAN database at filename vtpconfig.
```

次に、VTP モードをクライアントモードに設定する例を示します。

```
Router(config)#
vtp mode client
Setting device to VTP CLIENT mode.
```

次に、VTP モードをグローバルにディセーブルにする例を示します。

```
Router(config)# vtp mode off
Setting device to VTP OFF mode.
```

次に、デバイスを VTP サーバモードにリセットする例を示します。

```
Router(config)# no vtp mode off
Setting device to VTP OFF mode.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報とドメイン情報を表示します。
<b>vtp (インターフェイス)</b>	ポート単位で VTP をイネーブルにします。

## vtp (インターフェイス)

ポート単位で VLAN トランキングプロトコル (VTP) をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **vtp** コマンドを使用します。ポート単位で VTP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp**

**no vtp**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

ポート単位の VTP はイネーブルになりません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(33)SXH	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

VTP イネーブル値は、ポートがスイッチされたポート状態で、トランクモードの場合にだけ適用されます。

### 例

次に、ポート単位で VTP をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)# vtp
```

次に、ポート単位で VTP をディセーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)# no vtp
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>vtp mode</b>	グローバルに VTP モードを設定します。

## vtp client

デバイスを仮想トランキンングプロトコル (VTP) クライアントモードにするには、VLAN コンフィギュレーションモードで **vtpclient** コマンドを使用します。VTP サーバモードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp client**

**no vtp client**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

VLAN モード

### コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (vlan)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6000 シリーズ スイッチに追加されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

### 使用上のガイドライン

受信スイッチがクライアントモードである場合、クライアントスイッチはその設定を変更して、サーバのコンフィギュレーションをコピーします。クライアントモードのスイッチがある場合には、必ずサーバモードのスイッチですべての VTP または VLAN 設定変更を行ってください。

**vtpserver** コマンドは、装置がクライアントモードではない場合にエラーを返さないという点を除き、**novtpclient** コマンドと同等の機能を提供します。

## 例

次に、装置を VTP クライアント モードにする例を示します。

```
Router (vlan) # vtp client
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報およびドメイン情報を表示します。
<b>vtp</b> (グローバル)	VTP コンフィギュレーション ストレージ ファイルの名前を変更します。
<b>vtp server</b>	装置を VTP サーバモードにします。
<b>vtp transparent</b>	装置を VTP トランスペアレントモードにします。

## vtp domain

装置の管理ドメイン名を作成するには、VLAN コンフィギュレーションモードで **vtpdomain** コマンドを使用します。管理ドメイン名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp domain** *domain-name*

**no vtp domain**

### 構文の説明

<i>domain -name</i>	ドメイン名。ドメイン名は最大 32 文字です。
---------------------	-------------------------

### コマンド デフォルト

管理ドメイン名は作成されません。

### コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (vlan)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6000 シリーズ スイッチに追加されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

### 使用上のガイドライン

*domainname* 引数を定義すると、ドメイン名は大文字と小文字が区別されます。

ドメイン名が設定されるまでは、装置は **no-management-domain** 状態になります。この状態では、ローカル VLAN 設定の変更の有無に関係なく、VLAN トランッキングプロトコル (VTP) アドバタイズを送信しません。現在トランッキング中であるポート上で最初の VTP サマリー パケットを受

信したとき、あるいは **vtpdomain** コマンドで設定されたドメイン名を受け取ったときに、装置の **no-management-domain** 状態が終了します。装置がサマリーパケットからドメインを受け取る場合は、コンフィギュレーションリビジョン番号が 0 にリセットされます。

装置の **no-management-domain** 状態が終了すると、NVRAM を消去して、装置をリロードしない限り、再度 **no-management-domain** 状態になるように設定できません。

#### 例

次に、装置の管理ドメインを DomainChandon に設定する例を示します。

```
Router (vlan) # vtp domain DomainChandon
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報およびドメイン情報を表示します。
<b>vtp</b> (グローバル)	VTP コンフィギュレーションストレージファイルの名前を変更します。

## vtp password

仮想トランッキングプロトコル (VTP) ドメインパスワードを作成するには、VLAN コンフィギュレーションモードで **vtp password** コマンドを使用します。パスワードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp password** *password-value*

**no vtp password**

### 構文の説明

<i>password value</i>	パスワード。値は 1 ～ 32 文字の範囲の ASCII 文字列です。
-----------------------	-------------------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトは password です。

### コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (vlan)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6000 シリーズ スイッチに追加されました。
12.1(1)E	Catalyst 6000 シリーズ スイッチにおけるこのコマンドのサポートが E トレインに拡張されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

### 使用上のガイドライン

*passwordvalue* 引数の値は、1 ～ 32 文字の ASCII 文字列です。

## 例

次に、DomainChandon の VTP ドメイン パスワードを作成する例を示します。

```
Router(vlan)# vtp password DomainChandon
```

次に、VTP ドメイン パスワードを削除する例を示します。

```
Router(vlan)# no vtp password
Clearing device VLAN database password.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報およびドメイン情報を表示します。
<b>vtp (グローバル)</b>	VTP コンフィギュレーションストレージファイルの名前を変更します。



## vtp server

装置を仮想トランキンングプロトコル（VTP）サーバモードにするには、VLAN コンフィギュレーション モードで **vtpserver** コマンドを使用します。

### vtp server

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトは VTP サーバ モードです。

#### コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (vlan)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6000 シリーズ スイッチに追加されました。
12.1(1)E	Catalyst 6000 シリーズ スイッチにおけるこのコマンドのサポートが E トレインに拡張されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

#### 使用上のガイドライン

サーバモードのスイッチで VTP または VLAN 設定を変更した場合、その変更は同じ VTP ドメインのすべてのスイッチに伝播されます。

ダイナミック VLAN 作成がディセーブルの場合、VTP に設定できるモードは、サーバモードまたはクライアントモードのいずれかに限ります。

受信スイッチがサーバモードの場合、設定は変更されません。

**vtpserver** コマンドは、装置がクライアントモードではない場合にエラーを返さないという点を除き、**novtclient** コマンドと同等の機能を提供します。

## 例

次に、装置を VTP サーバモードにする例を示します。

```
Router(vlan)# vtp server
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報およびドメイン情報を表示します。
<b>vtp (グローバル)</b>	VTP コンフィギュレーションストレージファイルの名前を変更します。
<b>vtp client</b>	デバイスを VTP クライアントモードにします。
<b>vtp transparent</b>	装置を VTP トランスペアレントモードにします。

## vtp transparent

装置を仮想トランキンングプロトコル (VTP) トランスペアレントモードにするには、VLAN コンフィギュレーションモードで **vtptransparent** コマンドを使用します。VTP サーバモードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp transparent**

**no vtp transparent**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトは VTP サーバモードです。

### コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (vlan)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(7)XE	このコマンドが、Catalyst 6000 シリーズ スイッチに追加されました。
12.1(1)E	Catalyst 6000 シリーズ スイッチにおけるこのコマンドのサポートが E トレインに拡張されました。
12.2(2)XT	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータで実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズ ルータ上の Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは、Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされます。このトレインの特定の 12.2SX リリースにおけるサポートは、フィーチャセット、プラットフォーム、およびプラットフォームハードウェアによって異なります。

### 使用上のガイドライン

**vtptransparent** コマンドは、ドメインの VTP をディセーブルにしますが、スイッチからドメインを削除しません。

受信スイッチがトランスペアレントモードの場合、設定は変更されません。トランスペアレントモードのスイッチは、VTPに参加しません。トランスペアレントモードでスイッチ上のVTPまたはVLAN設定を変更しても、変更はネットワーク上の他のスイッチに伝播しません。

**vtpserver** コマンドは、装置がトランスペアレントモードの場合にエラーを返さないという点を除き、**novtptransparent** コマンドと類似しています。

## 例

次に、装置を VTP トランスペアレント モードにする例を示します。

```
Router(vlan)# vtp transparent
```

次に、装置を VTP サーバ モードに戻す例を示します。

```
Router(vlan)# no vtp transparent
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show vtp</b>	VTP 統計情報およびドメイン情報を表示します。
<b>vtp</b> (グローバル)	VTP コンフィギュレーション ストレージ ファイルの名前を変更します。
<b>vtp client</b>	デバイスを VTP クライアント モードにします。
<b>vtp server</b>	装置を VTP サーバ モードにします。